

# ちいぎ新聞

2020年7月3日

北越谷版

発行部数38,797部

VOL.499 全49巻

経費対価数2,547,888部

**今週の見どころ**

- ☆若槻こはく菓子ひなな誕生
- ☆にぎわい交流館いわつき
- ☆吉川市産産物販売マップ
- ☆熱中症予防行動のポイント

## 屋根・外壁塗装をご検討の方

最終ページ一番下  
をご覧ください。  
誠得興業 株式会社



☎0120-414-133

ちいぎ新聞へのお問い合わせは ☎0120-152-337 ※音声ガイドに基いてご用件をお話しくたさい 受付/平日10:00~18:00 ※土日祝日は休み ☎ kka-kohichiknews.jp



個性豊かな「しらこぼと笛」



毎週金曜日の午後1時30分から活動中

ラブ シラコバト

## Love Shirakobato プロジェクト「しらこぼと笛」

埼玉県熊谷市であり越谷市の鳥でもあるシラコバト。NPO法人障害者の職場参加をすすめる会「せいち」はスタッフと協力者（障害者）の下で、シラコバトをモチーフにした郷土玩具「しらこぼと笛」の絵付けを行っている。

共に生きる願いを託して



穏やかな雰囲気の中で行われる絵付け作業

二つつの作品に  
個性を込めて

シラコバトは寛政約70年のハト。越谷市内で養殖業が盛んだった1970年代までは各所で見られたが、現在は環境の変化とともに激減している。

「世」種では、姿を消しつつあるシラコバトに思いを寄せる活動「Love Shirakobatoプロジェクト」を立ち上げた。スタッフと協力者で、シラコバトをかたどった素焼きの笛の絵付けや受注・納品作業を行っている。絵付け指導は市内在住の人物「山崎昭二さん」。シラコバトの特徴である首の模様や、羽には熊谷の花や草花を描いていきます。二つつの作品に個性が込められます」と山崎さん。

現在、越谷駅高架下にある「ガーヤちゃん」の蔵屋敷に、同じく越谷駅近くの「フリースペース」しがや絵本館、北越谷駅西口の「茶のみ すず」で、1個税込500円で販売中。箱に入った状態で売られているので、どんな柄かは開けての個性豊かな「しらこぼと笛」。

（あへちえめ）

社会参加を通じて  
気持ちよくながれば

お楽しみだ。

協力者の皆さんに、この活動を通じながら、

「知り合いが応援してくれていた」「絵付けが楽し」「野生のシラコバトを実際に見てみたい」という事ができました」など、熱い思いが寄せられた。

大変なのは、絵付け本番前に行う細かい線を描く作業や、首回りの絵付けが難しいこと。個性まじりの種上秀さんは「スマートに描けないことが大変です」と語る。

車椅子で入れない店舗もあり、納品を集金を店先で行わざるを得ないことも。車椅子を使用している友野田紀恵さんは「自分たちの社会参加を通じて、人と人が共生する上でさまざまな気持ちにならねば」と話す。関わる人たちの温かな心によって作られる「しらこぼと笛」。その音色には、自然と町と人々が共に生きるこへの願いが込められている。

お問い合わせ

☎048(9)641-0199

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

「世」種（越谷市東越谷1の1の7須賀ビル01）